

# わらびて

149  
号



骨寺村荘園遺跡駒形根神社境内から梵音具の鉄磬<sup>ぼんおんぐ てつけい</sup> (素文片面磬)が出土しました。岩手県内の鉄磬の出土は5例目、銅製を含めると7例目です。

現状は、長さ15.3cm、高さ6cm。表面中央に「大」<sup>ようちゆう つきざ</sup>の陽鑄。撞座は確認出来ず、左区右区無文、背面は無文、首稜や股は確認でき、鈕は右側欠損。鈕孔の確認ができます。子縁はみられず。銑の一部が欠損。年代は平安後期～鎌倉前期と推定されます。

(一関市教育委員会 文化財課)

## 主な内容

- ◆ 令和5年度の発掘調査成果  
埋蔵文化財センター …… 2,3P
- ◆ 注目された遺跡 …… 4,5P
- ◆ 陸前高田市立博物館へ  
行ってみよう! …… 6,7P
- ◆ 令和5年度イベント報告 …… 8P

【所報名について】「わらびて」は蕨手刀(わらびてとう)に由来しています。蕨手刀は、奈良～平安時代初期に使われた鉄製の刀で柄頭が早蕨(さわらび)の芽を巻いた状態に似ていることからこう呼ばれます。群集墳などから出土し、東北地方、特に岩手県で多く出土しています。

## 縄文・弥生・室町時代に成果

令和5年度は、当初計画9遺跡128,874㎡の調査面積でスタートしましたが、その後の調整を経て、最終的に10遺跡127,210㎡の発掘調査を終えることができました。前年度実績と比較すると、面積はおよそ1.7倍となっています。調査した遺跡は、県央部を中心に沿岸地区の3遺跡を加え、県内4市1町1村に及んでいますが、今年度もそれぞれの遺跡から新たな成果が得られました。

### 縄文時代

#### 360基を超える落とし穴

花巻市太田の折居遺跡<sup>おりい</sup>では、縄文時代前期から中期初めにかけての大形住居や貯蔵穴などが重なって見つかりました。検出された状況から、これらの遺構群は円環状をなす可能性があります。この他、花巻市山ノ神Ⅱ遺跡、北上市岡田遺跡・広表遺跡からは、数多くの落とし穴が確認され、3遺跡での総数は360基以上を数えました。いずれも平面形には溝状と円形の2種類がありますが、



縄文時代前期の竖穴住居 広表遺跡

内陸部における狩猟の様子を詳しくうかがうことができます。住田町の中塚Ⅲ遺跡<sup>なかづね</sup>では、次年度に向けた内容確認調査を行いました。晩期の遺構・遺物が数多く確認されています。



円形・溝状の落とし穴 山ノ神Ⅱ遺跡

### 弥生時代

#### 北陸地方の管玉が出土

今年度も、埋没した沢から弥生時代中期の遺物が大量に見つかった花巻市天ヶ沢遺跡の継続調査を行いました。これらは、岩手県内でも類例の少ない時期の遺物ですが、この中には佐渡を含む北陸地方などとの関連を示す碧玉製の管玉やシカ類と思われる動物形の土製品など、他地域との交流を考える上で、貴重な遺物が含まれていました。



平安時代

関東系のカマドを検出

平安時代では、「関東系」と言われる全長の短いカマド施設をもつ竪穴住居が確認された岡田遺跡や、製鉄に関連すると思われる炭窯9基が見つかった花巻市山ノ神Ⅱ遺跡が挙げられます。

また、昨年度に引き続き調査を実施した奥州市中林下遺跡では、奥州藤原氏時代の溝や土坑、中・近世の遺構群が、遺物では柄杓ひしゃくなどの木製品が見つかっています。



調査区全景(南から) 中林下遺跡

中世

室町時代の屋敷跡を調査

奥州市作屋敷遺跡からは、三期にわたる12棟の掘立柱建物とそれらに付属する池状の施設や井戸・区画溝など、一連の遺構群が確認されました。出土遺物から、室町時代15世紀代に属するものと考えられます。



土器が廃棄された土坑 折居遺跡

まとめ

今年度の調査成果は、縄文・平安時代の集落のあり方、弥生時代中期の出土遺物の特徴、そして室町時代の屋敷の構造、という3点にまとめることができます。次年度以降も新たな成果が報告できるよう、丁寧な発掘調査に励みたいと思います。(調査課)

令和5年度発掘調査一覧

No.	遺跡名	所在地	主な時代	調査面積 (㎡)	開発事業名
1	なかばやしした 中林下遺跡	奥州市	平安時代・中世・近世	1,820	一般国道4号水沢東バイパス
2	あまがさわ 天ヶ沢遺跡	花巻市	弥生時代	2,200	経営体育成基盤整備事業(砂子地区)
3	おりい 折居遺跡	花巻市	縄文時代	2,036	農業農村整備事業(農業競争力強化基盤整備事業経営体育成型 太田地区)
4	さくやしき 作屋敷遺跡	奥州市	中世	1,465	経営体育成基盤整備事業(若柳中部地区)
5	やまのかみ 山ノ神Ⅱ遺跡	花巻市	縄文時代・平安時代	61,875	(仮称)花南産業団地整備
6	おかだ 岡田遺跡	北上市	縄文時代・平安時代・近世	40,100	北部産業業務団地整備
7	ひろおもて 広表遺跡	北上市	縄文時代・平安時代	15,226	北上工業団地整備
8	おおたばやし 太田林遺跡	釜石市	縄文時代	488	橋野地区消防屯所建設
9	なかたい 中平遺跡	野田村	縄文時代・平安時代	2,000	野田小学校整備
10	なかそね 中埴Ⅲ遺跡	住田町	縄文時代	表土掘削まで 次年度本調査	林業関連施設建設(仮)
計10件10遺跡				総計 127,210	

## 注目された遺跡

# 堀外部のようすが次第に明らかに

やなぎのごしよ  
柳之御所遺跡  
平泉町

柳之御所遺跡は平泉町の中心部に位置し、北上川沿いの河岸段丘に立地しています。遺跡は2条の大規模な堀に区画された内側（以下、堀内部地区）と、その外側（以下、堀外部地区）の2地区に分かれています。

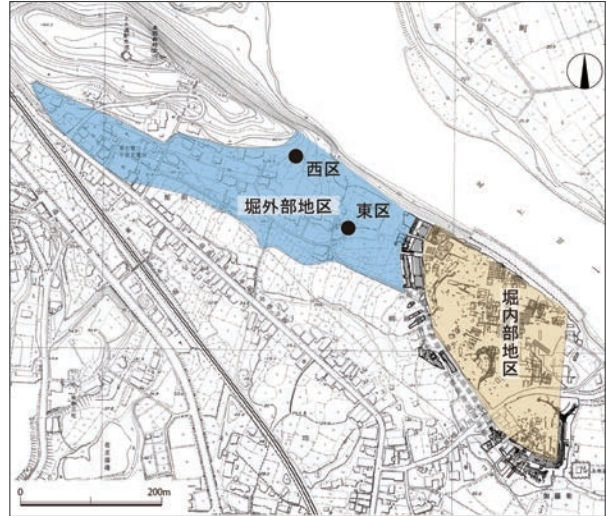
これまでの調査により奥州藤原氏が築いた平泉文化の内容が多く、遺構・遺物により示されており、堀内部地区の範囲が鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』に記載されている奥州藤原氏の政庁「平泉館」であると推定されています。

堀外部地区は奥州藤原氏の一族や家臣団の屋敷地などの見解もありますが、未調査の範囲も多く、不明な点が残されている状態です。

当課では、柳之御所遺跡の史跡整備に向けて、平成30年度から堀外部地区の内容確認のための発掘調査を計画的に進めています。

今年度の第85次調査は、屋敷地などを区画していたと考えられている溝跡のうち、北西端にあたる溝跡の確認と、柳之御所遺跡から中尊寺方向へ延びている道路跡中央部の確認の2点を目的として、2箇所（以下、西・東区）の調査を実施しました。

調査の結果、西区では南北・東西方向からの溝跡が接続すると考えられていた箇所を確認することができました。南北・東西方向ともに溝跡が2条あり、接続してL字（緑色）やT字を横にした形（桃色）になるようです。溝跡の



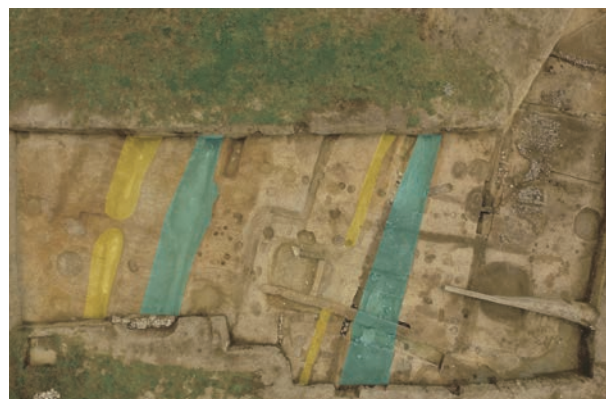
規模は幅が約1.5mから2.0m、深さは約70cmから深いところでは130cmもあります。溝跡は重なっていることから、つくられた時期に差があるようです。

東区では道路跡の延長を確認することができました。現代の道路と同様に道路わきに側溝（水色と黄色）があり、側溝も複数あることから道路のつくり替えも行われているようです。両わきの側溝から推定すると道路幅は約12mで、現代の道路と比べても、自動車がすれ違うには十分な幅です。当時は人や馬が往来していたかもしれません。今後もこうした遺跡の情報を蓄積し、堀外部地区の性格についての調査と研究を継続していく予定です。

(岩手県教育委員会生涯学習文化財課 高橋 祐)



西区 区画溝のようす(写真上が北)



東区 道路側溝のようす(写真上が東)



## 本丸御殿の規模と構造を確認

花巻城跡  
花巻市

花巻城は、旧花巻市市街地の中央に位置しています。戦国時代以前には国人領主の稗貫氏の居城で、鳥谷崎城と呼ばれていました。江戸時代以降、南部氏が支配するようになり、城は花巻城と呼ばれ、幕末まで存続しました。

城は河岸段丘の上に建てられており、その周囲は標高差約15mの急崖となっています。規模は南北500m×東西700mと非常に広大で、城の最北部には本丸があります。本丸には盛岡藩主の滞在施設である本丸御殿が建っており、行政の中心でもありました。本丸の南側と西側は二之丸に囲まれており、二之丸には郡代屋敷や穀物蔵、稽古場などが配置されていました。さらに南側の三之丸には東西道路の「館小路」に面して、花巻御給人と呼ばれる家臣団の武家屋敷が立ち並び、城内への侵入を防ぐ要素となっていました。

花巻城の発掘調査により、三之丸では武家屋敷の遺構や陶磁器、屋根瓦などが多数見つかりました。武家屋敷の建築形態が掘立柱建物から礎石建物へと変遷していたことも確認されました。二之丸では米蔵跡が見つかり、炭化米や焼土も発見されました。これらは享保年間における火災の痕跡として考えられ、それが盛岡藩の記録と合致しています。

本丸では平成30年から本丸御殿の内容確認



花巻城本丸跡近景(東から)

調査が実施されています。この調査により、本丸御殿の遺構が初めて確認されました。御殿の基礎は、直径約1mの円形の土坑を掘り、その中に石を詰め込み、礎石を載せたものでした。これらの基礎跡が等間隔に配置されており、本丸御殿の規模は南北45m×東西90mと推定されます。また、絵図面によれば、本丸御殿は大きく西側建物と東側建物に二分されていたことが分かります。発掘調査によって、東西建物の建築地盤には約40cmの高低差があり、西側が高いことが確認されました。これは本丸御殿の立体的な構造を想像できる発見です。令和5年の調査では、本丸で初めて南部家の家紋である向鶴文の軒丸瓦が出土しました。花巻城では三之丸に次ぐ2例目であり、南部氏の支配拠点であったことを象徴しています。

(花巻市教育委員会 菊池 賢)



令和5年度 本丸跡調査区 空中写真



本丸出土 向鶴文軒丸瓦



# 陸前高田市立博物館へ 行ってみよう!

ぼくたちの  
博物館を紹介するよ!



せき坊

陸前高田の山、川、海の動物たち 豊かな海を象徴する多様な魚類の展示

東日本大震災により人的被害を含む甚大な被害を受けた陸前高田市立博物館は、市民の協力や全国の専門機関からの支援により資料の回収や修復を続けて来ました。被災から11年を経て、令和4年11月に、同じく被災した海と貝のミュージアムと統合して開館しました。

## 海の豊かさを実感

新しい博物館は、陸前高田の豊かな海を中心に、その豊かさを生み出す自然、海に支えられ



今も続けられる被災資料の修復



有名な貝塚の多い陸前高田 貝塚出土の資料展示コーナー

てきた人々の歴史と文化について、地質学、生物学、考古学、民俗学など様々な分野から紹介しています。

埋蔵文化財も多く展示されています。この地方には門前貝塚、中沢浜貝塚など有名な貝塚がたくさんあります。土器、石器のほか、なんといっても豊富な骨角器が注目されます。釣針、<sup>もりがしら</sup>銚頭、骨針といった道具類のほか装身具もあり、材料も魚骨、鳥骨、鹿や熊の骨、貝と様々で、内陸の遺跡出土品では目にするのできない縄文時代の道具の豊かさが感





アバッセたかたの  
向いにあります

開館時間	9:00 ~ 17:00 (入館 16:30まで)
休館日	年末年始、月曜日(祝日の場合は翌日)
入館料	無料
住所	岩手県陸前高田市高田町字並杉 300-1
電話	0192-54-4224

じられます。中には、被災で行方不明になってしまった貴重なヤマネコの歯で作られた装身具を、研究者の持っていたデータを提供してもらい、復元したレプリカもあります。

民俗資料では令和5年3月に国の重要有形民俗文化財に指定された漁撈具があげられます。獲物に合わせた多様な道具の使い方がわかるように展示されていて、陸前高田の人々が海によって生きてきたことを実感させられます。

## 博物館の礎

本市出身の博物学者鳥羽源藏とその弟子千葉蘭児の紹介のコーナーでは、この二人の業績が当博物館が東北第1号の公立の登録博物館として昭和34年に開館した礎となった経緯を知ることができます。



アクセサリー



世界の貝が2000点も展示されている貝たちの部屋  
タカラガイだけでもこんなに種類があります

## 過去の津波から

その都度発生の状況や規模の異なる津波…。避けることのできないこの自然の猛威に対し、津波の歴史からどう学び、行動していくべきか考えさせられます。

## 遊びながら学ぶ

このほか、「つりの広場」など遊びながら学べるコーナーも充実しています。お子さんだけでなく、大人も楽しいこと請け合いです。



見逃せない骨角器の数々

# 公開講座・遺跡報告会

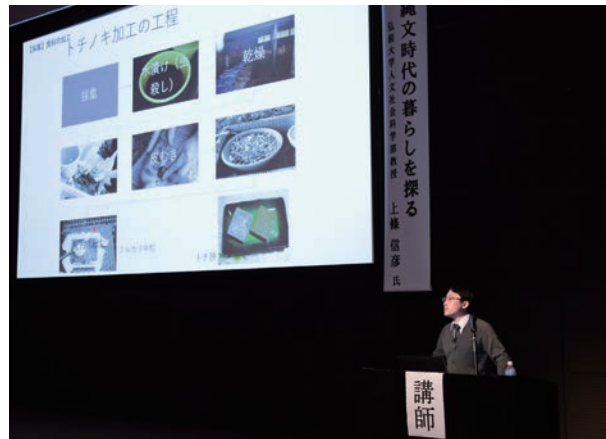
## 盛岡市アイーナで開催

1 / 28 日

今年度の公開講座では、弘前大学教授上條信彦さんに『新しい手法から縄文時代の暮らしを探る』と題して講演していただきました。

石器の使用痕や残留したでんぷんの分析などで当時の食の多様性に迫ったり、X線CTなどの機器を使って装飾品の加工技術を解き明かす新しい研究方法の紹介に、『縄文時代にタイムスリップしたようで、具体的な縄文人の日常が目に浮かびました』といった感想が寄せられました。

引き続き行った遺跡報告会では、今年度調査した遺跡の中から縄文時代の3遺跡について、多様な落とし穴の形や、環状に広がる可能性の



縄文の暮らしを探る様々な方法を紹介する上條先生

ある集落のようすなどを担当調査員から報告しました。

# 埋蔵文化財展

## 普代社会体育館で開催

11 / 4・5 日

今年度の埋蔵文化財展は、埋蔵文化財センターが調査した普代村内4遺跡から約250点の出土遺物などを展示しました。

縄文時代の<sup>おさんど</sup>大集落、力持遺跡から出土した東<sup>おさんど</sup>北北部の円筒式土器と南部の大木式土器や、幼児の背丈ほどもある<sup>おさんど</sup>長<sup>おさんど</sup>途遺跡出土の大型深鉢などが注目を集めました。江戸時代の割沢鉄山のコーナーでは展示された道具を前に鉄づくりについて語り合う姿も見られました。



子どもたちに大人気の体験コーナー 土器パズル



普代村文化祭と同時開催

発行 岩手県立埋蔵文化財センター  
 編集 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
 〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185  
 電話 : 019-638-9001  
 F A X : 019-638-8563  
 E-Mail : i-maibun@echna.ne.jp  
 U R L : http://www.iwate-maibun.jp/  
 発行日 令和6年2月29日  
 印刷 東京カラー印刷株式会社